

保育者養成における音楽指導に関する一考察（その3） — 学生の歌詞理解の実態と問題 —

A study on musical guidance in training curriculum of a day nursery (No.3)
— the actual state and problem of the text understanding by students —

宮脇 長谷子

MIYAWAKI Haseko

1 研究の目的

筆者はこれまでに保育者養成における音楽の授業内容や教材について、各方面から調査研究を続けてきたが、幼児の歌唱教材（こどものうた）の重要性をますます感じるようになった。というのも、例えば最近流行の「おしりかじり虫」のように、面白いだけの騒々しい歌がテレビから溢れ、自然の風物を盛り込んだ歌詞を持つ曲や豊かな情感をもつ曲が歌われなくなってきたと感じるからである。本学の学生の年代で既に「弾き歌い」の曲を選択させると、テレビソング、アニメソング、ディズニーソングを好み、「たなばたさま」とか「まつぼっくり」といった伝統的ないわゆる「童謡」と言われてきた曲を敬遠しがちである。一連の研究（その2）の調査でも4月の調査で「たなばたさま」を知らない学生が19名、「まつぼっくり」を「知らない」と答える学生が38名もいたことに驚かされた。さらに、その学生達が「最近、テレビで良い歌をやらなくなった。私たちが子どもの頃は『おかあさんと一緒』とか、『ひらけぼんきつき』で楽しい歌を一杯やってくれた」と指摘する。筆者の感想と一致するところであり、子ども達を取り巻く音楽環境は好ましい状況ではないと実感している。そういう時代だからこそ、良い歌を見直し残していこうとする努力が、現場や保育者養成校に求められているのではなかろうか。

良い歌は、旋律やリズム、語調の楽しさだけでなく「歌詞」が優れている場合が多い。従って、保育者を目指す学生が、歌詞の意味を考えようとせず、その楽曲の持つ詩的なイメージやストーリー、またはその色彩的感覚などをイメージできないまま、ただ「何曲覚えた」「何曲歌えた」という意識で学習しているとすれば、出てくる音楽も表現性の乏しいものとなるであろう。さらに、歌いながら環境教育や言語教育が出来る教材なのに、保育者自身が歌詞を理解していなければ、子どもに教えること出来ないはずである。このような視点から、平成12年には「学生の歌詞理解」の実態を調査する研究を行った¹⁾。その結果、「何気なく歌っている」「子どもに説明するとなると分からない言葉が多い」「歌詞を勘違いして覚えている」といった問題が浮き彫りとなり、歌詞の指導も必要であることを学んだのである。

そこで本研究では、7年前と同じアンケート調査を行い、歌詞指導の成果は上がっているのかどうか検討してみたい。さらに、以前の学生に比べて環境が変化してきている現在の学生は、歌詞を

どれくらい理解しているのか、その実態を把握するとともに問題点を検討する。

2 仮説

前回の調査時よりも、歌唱指導を多く取り入れている本年度の授業を受講している学生を対象とするので、前回よりも不明語が減少し、歌詞理解は高められているのではないかと仮定出来る。ただし、自然環境の破壊やや古い歌が消えつつある現情がどのような影響を及ぼすか予測しづらい。

3 研究の方法

3-1 アンケート用紙の作成

アンケート用紙は、平成11年に作成した用紙をそのまま使用した(資料参照)。アンケート用紙の作成に当たっては、保育現場で使用頻度の高い歌唱教材の調査と予備調査²⁾の結果を経て、歌詞の意味理解が難しいと思われる34曲を選んで質問紙を作成した。前述したように、自然物に関する歌詞を含む曲、調査対象となる学生に馴染みがある曲を選ぶ目的から、小学校低学年対象の歌唱教材も加味している。

以下、その調査内容と目的の概要を示す。

3-2 調査の内容

(1) 設問Ⅰ

過去の研究から³⁾、歌詞の意味理解が不十分となる可能性のある曲を8曲選定し、その歌詞を全てひらがなで表記し、「意味のよく分からない単語、または幼児に説明するとき不安だと思う単語」を丸で囲ませるといった方法をとった。歌詞を全てひらがなで表記したのは、歌というものが聴覚によって認知されるものであることと、音符の下に書かれている歌詞がひらがなであるという理由による。

<選定曲>

まっかな秋 たきび たなばたさま お正月 こいのぼり 手のひらを太陽に
うれしいひなまつり アルプスいちまんじゃく

(2) 設問Ⅱ

動物や昆虫の名前、植物の名前が出てくる歌は、幼児教育にとって残しておきたい重要な教材であり、学生にも自然物に対する関心と理解をもって欲しいと考え、設問Ⅱは、そのジャンルに属する単語のみを表記し「意味の良く分からないもの」を丸で囲むよう設定した。

単語抽出の根拠となった曲名は表1で示す。設問Ⅰにも「こいのぼり」という曲が設定されているが、表3の中の「こいのぼり」とは同名異曲である。「たちばな」という単語を抽出した「こいのぼり」の歌い出しは「薨の波と、雲の波～」である。

(3) 設問Ⅲ

過去の調査で勘違いが多かった歌詞の部分を5事例示し、正解を示した上で「勘違いしていた」と認める番号に丸をつけさせ、さらに自由記述によって勘違いの実態を把握しようとするものである。「勘違い」という状態もまた「理解不十分」と同質のものと考え、以後の分析では設問Ⅰから設問Ⅲまでの単語及び事例を「不明語」として分類する。ただし、設問Ⅲの自由記述は除き、不明語選択数としてカウントしない。

(4) 設問Ⅳ

アンケートを記入した感想、アンケートそのものに対する意見を自由記述で問う。

(5) 設問Ⅴ

回答者自らの「育った自然環境」「虫や小動物への関心」「草木や植物への関心」を「多かった」

「やや多かった」「やや少なかった」「少なかった」までの4段階で自己評価させ、さらに「旋律と歌詞はどちらが先に印象に残るか」と問うものである。歌詞理解を促す要因、妨げる要因を探るためである。

3-3 調査方法

今回の研究で比較する前回12年度の共同研究は、前もって授業で歌詞の説明を受けていない状態の学生を対象とすることを共通項にして、岩手県、埼玉県、東京都、静岡県、の短大、大学5校で調査を行った。本校でも、上記の条件に当てはまる1年生47名に対して6月中にアンケート調査を行っている。それに対して、今回は「基礎技能Ⅰ（音楽）」の声楽の時間を受講し「こどものうた」を学習している学生を対象に調査することとした。

- ・対象学生：社会福祉専攻「基礎技能Ⅰ（音楽）」受講生 1年生 42名
- ・調査日：2006年 12月7日
- ・方法：授業内でアンケート用紙を配布し無記名で記入して貰う。

4 調査の結果および考察

4-1 不明語選択の状況（設問Ⅰ、設問Ⅱ）

設問Ⅰと設問Ⅱはともに「意味の良く分からない単語」「幼児に説明するとき不安だと思う単語」を選択する調査であるから、この項でまとめて分析し、考察をする。

設問Ⅰの回答を集計し、各曲ごとにまとめたものが表2である。今年度の調査結果を、選択した学生の実数で示し、比較する平成11年度生の人数は括弧内に記した。42名と47名で5名の違いはあるが、大きなズレは生じないと判断し、実数で示すこととした。

集計していて驚いたことは、11年度生の方が不明語選択数が少なく、歌唱教材を学習してきたはずの本年度生の方が成績が悪いことである。特に今回は、「単語を○で囲め」と指示してい

表1 設問Ⅱ 単語と出典曲一覧

単語	曲名	作詞	作曲
アマリリス	アマリリス	岩佐東一郎	フランス民謡
つげ			
もみじ	こぎつね	勝承夫	外国曲
かんざし			
ふくじゅそう	カレンダーマーチ	井手隆夫	福田和禾子
ポプラ	まきばの朝	文部省唱歌	船橋栄吉
びわ			
カナリア	ゆりかごのうた	北原白秋	草原信
かえで	もみじ	文部省唱歌 高野辰之	岡野貞一
いのこずち	くつつたね ぶつつち	松岡節	大中恩
たちばな	こいのぼり		
まつむし			
すすむし	むしのこえ	文部省唱歌	
くつわむし			
うまおい			
めだか	めだか	茶木滋	中田喜直
ひばり	どこかで春が	百田宗治	草川信
クラゲ	くらげのさんぽ	小林純一	團伊玖磨
とんび	とんび	葛原しげる	梁田貞
ひよこ	かわいいかくれんぼ	サトウハチロー	中田喜直
どじょう	どんぐりころころ	青木存義	梁田貞
いるか			
バッタ	いるかはざんぶらこ	東龍男	若松正司
まきば	まきばの朝	文部省唱歌	船橋栄吉
	まきばの子牛	小林純一	川口晃
シャボン	おかあさん	田中ナナ	中田喜直
フルーツ	山の音楽家	水田詩仙	ドイツ民謡
じゃのめ	雨ふり	北原白秋	中山晋平
ひつじ	メリーさんのひつじ	高田三九三	アメリカ民謡
りす	コンコンクシャンのうた	香山美子	湯山昭
やぎ	やぎさんゆうびん	まどみちお	團伊玖磨

表2 設問I 曲別不明語選択一覧(括弧内は平成11年度生)

まっかな秋 (人数)		うれしいひなまつり (人数)		手のひらを太陽に (人数)	
からすうり	30(29)	かんじょ	18 (16)	おけら	31 (34)
つた	22(20)	やよい	15 (1)	ちしお	23 (17)
つたのはっぱ	5 (2)	ぼんぼり	14 (2)	すかして	1 (0)
ひがんばん	10 (3)	しろざけ	11 (0)	すかしてみれば	2 (0)
おみや	14 (1)	めされたか	10 (8)	あめんぼ	1 (0)
とりい	5 (1)	うだいじん	8 (2)		
おみやのとりい	8 (0)	すましがお	6 (0)		
たずねて	2 (1)	はれすがた	5 (2)	アルプスイちまんじゃく (人数)	
よびかけて	2 (0)	うつるひ	4 (1)	こやり	36 (37)
ゆうやけぐも	2 (0)	ごにんばやし	3 (1)	いちまんじゃく	22 (15)
かこまれて	1 (0)	ばやし	2 (1)	アルプスイちまんじゃく	1 (0)
もみじ	1 (0)	かすかに	2 (0)	アルプス	1 (0)
たきび	1 (0)	びょうぶ	2 (1)	アルペンおどり	9 (15)
まっか	2 (0)	おだいら	1 (0)	アルペン	7 (0)
しずむ	1 (0)	おひな	1 (0)		
ほっぺた	1 (0)	よきひ	1 (0)		
ゆうひ	1 (0)	およめ	1 (0)	こいのぼり (人数)	
きみ	1 (0)	いらした	1 (0)	まごい	27 (18)
とんぼのせなか	1 (0)	おび	1 (0)	ひごい	27 (18)

たきび (人数)		たなばたさま (人数)		お正月 (人数)	
さざんか	27 (10)	のきば	39 (33)	おいばね	23 (27)
さざんかさざんか	1 (0)	すなご	32 (39)	まり	2 (0)
かきね	18 (6)	きんぎんすなご	6 (4)	こま	2 (0)
かきねのかきね	1 (0)	ごしき	12 (7)	おしょうがつ	1 (0)
こがらし	18 (6)	たんざく	3 (0)		
こがらしこがらし	2 (0)	ごしきのたんざく	1 (0)		
おちばたき	7 (5)	ささのは	3 (0)		
しもやけ	5 (0)				
きたかぜ	4 (0)				
そうだん	2 (0)				
びーぶー	1 (0)				
まがりかど	1 (0)				

るにも拘わらず、「たずねて」とか「よびかけて」「かこまれて」「しずむ」(以上、まっかな秋)「すかして」「すかしてみれば」(手のひらを太陽に)といった動詞を選択している学生もいて、レベルの低下を実感させられた。前回の調査では他校の学生に見られたミスであり、本学の学生にはほとんど見られない現象であった(「うれしいひなまつり」の「めされたか」のみ)。

「まっかな秋」では、「からすうり」「つた」が多く選択されており、その数値は前回とあまり変わらない。ただ「ひがんばん」「おみや」「おみやのとりい」といった単語で前回よりも増えており、真っ赤に咲く彼岸花や、お宮の赤い鳥居を目にする事のない世代になったのだろうかと不安にかられる。さらに、この曲は宮脇が授業で取り上げて、「秋になると紅葉が美しく、全ての物が『真っ

赤に』染まる、そう言った光景を表現している」と解説し、一緒に歌っているにも拘わらず、たとえ1・2名であっても、「まっか」「ゆうやけぐも」「もみじ」「ゆうひ」「とんぼのせなか」といった単語を「分からない」と思う学生がいたことは残念であった。

次に「うれしいひなまつり」では「かんじょ」と「めされたか」の2語は前回も選ばれているが、今回は「やよい」「ぼんぼり」「しろぎけ」「うだいじん」など、当然知っていると思っていた言葉が選択されているのが目につく。前回選ばれなかった「すましがお」といった言葉も現代では死語なのだろうかと考えさせられた。

また「たきび」では「さざんか」「かきね」「こがらし」の3語ともに前回よりも大幅に増えているが、前回全く選択されなかった「しもやけ」「きたかぜ」「そうだん」を選んでいる学生が目についた。たしかに「しもやけで手が痒い」といった経験をしたこともなく、「落ち葉焚き」の光景もみられなくなった昨今であるが、「相談しながら」というフレーズが理解出来ないとなると、基本的な理解力に疑問が出てくる。さらに「たなばたさま」では、「のきば」も「すなご」も「ごしき」も授業中に「軒端」「砂子」「五色」と漢字を書いて説明した記憶があるのだが、効果が見られず残念である。

唯一効果が見られたのが、「手のひらを太陽に」の「おけら」と、「お正月」の「おいばね」であり、前回よりも選択者が減少しているが、パーセンテージに直すと、ほぼ同率であった。

次に、同じ不明語の状況を示すものとして、あらかじめ単語のみを設定した設問Ⅱの集計結果をジャンル別にしめたものが表3である。

ここで興味深いのは、これらの単語を特に授業で取り上げて説明したわけではないのに、前回の調査結果とあまり変わらないという結果が出たことである。「いのこずち」「つげ」「ふくじゅそう」（以上、植物）、「うまおい」（虫）の4語では、本年度の学生のほうが数値が低い。考えられるのは、設問Ⅰがすべての歌詞がひらがなで示されていて、そこから単語を引き出す作業が難しく、設問Ⅱのように単語で示されたほうがわかり易いということではないか。だとすると、今回の調査対象となった学生たちは、前回の学生よりも理解力の面で質が低下していると言わざるを得ない。また、設問Ⅱでも前回選ばれなかった「かえで」を16人も分からないとして選んでいることに少なからずショックを受けた。「もみじ」とならんで「かえで」は日常生活で目にする植物であろうが、関心を持たなければ見えてこないであろう。他にも「ポプラ」とか、「ひばり」「カナリア」「とんび」は歌の中でしか生かされないものになりつつあるのだろうか。

表3 設問Ⅱ 不明語選択一覧（括弧内は平成11年度生）

	植物（人数）		動物&虫・鳥（人数）		その他（人数）	
不明語として選択されたもの	いのこずち	42(45)	うまおい	38(44)	じゃのめ	34(34)
	つげ	38(42)	くつわむし	38(36)	シャボン	9(4)
	ふくじゅそう	35(40)	まつむし	29(26)	まきば	4(1)
	たちばな	30(30)	ひばり	19(3)	かんざし	2(1)
	アマリリス	28(19)	カナリヤ	16(7)		
	ポプラ	19(6)	とんび	4(1)		
	かえで	16(0)	すずむし	3(1)		
	びわ	2(0)	クラゲ	1(0)		
合計	8	210 (182)	8	148(118)	4	49 (40)

4-2 勘違い語選択の状況（設問Ⅲ）

設問Ⅲの「勘違いして理解していた言葉」に対する調査の結果をまとめたものが表4である。この調査結果では、初めて歌唱教材を授業で取り上げた成果が現れている。1番から5番の中で、筆者が授業で取り上げたのは、1番の「どんぐりころころ」と、2番「アルプスいちまんじゃく」、5番の「たきび」であるが、前回の調査結果とほぼ同率であった。1番では、パーセンテージの上でも、38%と45%で前回の結果を下回ることができた。2番では、33%と42%、3番でも60%と70%と、それぞれ数値が低くなっている。「ゆき」だけが今回が上回っているが、「歌詞を正しく歌おう」と伝えてきたことが報われた想いである。

4-3 設問Ⅴの集計と総合比較

歌詞理解を促す要因、妨げる要因を探るために、回答者自らの「育った自然環境」や「虫や小動物への興味」「草木や植物への興味」「歌詞への関心度」を設問Ⅴで問うことはすでに述べたが、前回の研究では、地域差を見るために地理的に離れた5つの学校で調査を行った。その5校の中に本学の学生も含まれているわけであり、前回の5校の比較に今回の調査結果も加え、総合的に比較したいと考え、表5を作成した。設問Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの選択語数をまとめ平均値を出している。設問Ⅴについては、各質問項目の「多かった」を4、「やや多かった」を3、「やや少なかった」を2、「少なかった」を1として、その選択者をパーセンテージで表している。静岡E校は本学平成11年度生の集計結果であり、E校19年度版は今回の調査結果である。

表4 設問Ⅲ 勘違いして理解されていた歌詞選択一覧（括弧内は平成11年度生）

	曲名	勘違いして理解されていた内容	正	人数
設定語	1 どんぐりころころ	どんぐりころころ <u>どんぐりこ</u>	どんぶりこ	16(21)
	2 アルプスいちまんじゃく	アルプスいちまんじゃく <u>こやぎ</u> のういで	こやり	14(18)
	3 ひらいたひらいた	ひらいたひらいた…… <u>れんげ</u> のはながひらいた (レンゲ草のこと)	蓮の花の蓮華	25(33)
	4 ゆき	ゆきや <u>こんこん</u> あられやこんこん	こんこ	33(25)
	5 たきび	かきね(柿根)の <u>かきね</u> のまがりかど	垣根	4(4)

表5 H11年調査学校別集計とH19年本学調査の比較表

	設問Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ不明語				設問Ⅴ-1 自然環境 (%)				設問Ⅴ-2 動物・虫への興味 (%)			
	N	平均	最小	最大	4	3	2	1	4	3	2	1
岩手県A校	168	21.0	6	71	60.6	32.7	6.1	0.6	15.7	44.0	27.7	12.7
埼玉県B校	47	20.8	6	57	29.8	44.7	17.0	8.5	27.7	27.7	40.4	4.3
東京都C校	67	20.2	5	39	47.0	37.9	12.1	3.0	16.7	43.9	27.3	12.1
東京都D校	26	18.0	7	42	40.0	40.0	16.0	4.0	20.0	28.0	40.0	12.0
静岡県E校	47	17.5	3	31	40.4	48.9	6.4	4.3	4.3	44.7	36.2	14.9
全グループ	355	20.1	3	71	49.7	38.0	9.4	2.9	16.2	40.7	31.3	11.7
E校19年版	42	23.9	8	51	38.0	40.4	19.0	2.3	11.9	45.2	30.9	11.9

	設問Ⅴ-3 草花・木への興味 (%)				設問Ⅴ-4 (%)		
	4	3	2	1	曲	歌詞	どちらでもない
岩手県A校	18.1	46.4	31.3	4.2	84.3	10.8	4.8
埼玉県B校	19.1	42.6	31.9	6.4	65.2	26.1	8.7
東京都C校	21.2	50.0	24.2	4.5	81.8	15.2	3.0
東京都D校	16.0	44.0	36.0	4.0	96.0	4.0	0.0
静岡県E校	17.0	57.4	23.4	2.1	66.0	27.7	6.4
全グループ	18.5	47.9	29.3	4.3	79.7	15.4	4.9
E校19年版	9.5	42.9	40.4	7.1	76.2	14.3	9.5

不明語の欄でまず目に付くのは、前回の調査で本学の学生が一番選択数が少なかったことであり、平均値は17.5語であった。それに比べて本年度の学生は平均23.9語は5校中の最高値を示している。最小でも8語でもっとも多い。歌詞理解が乏しい要因を自然環境や、動植物への興味と絡めて考えてみると、特に目だった差異は発見できない。「自然環境」で11年度生の方が上回っているが、「動物・虫への興味」ではむしろ19年度生の方が上回っている。前回の研究でも歌詞理解を促す要因は「草花・木への興味」と「歌詞への関心」であるという結論が出たが、因らざるも今回も同じ結果となった。設問V-3「草花・木への興味」の欄では、11年度生が4（多かった）で17.0%、3（やや多かった）で57.4%であったのに対し、19年度生は9.5%、42.9%と合わせて22%の差が見られる。また設問V-4「旋律と歌詞ではどちらが先に印象に残るか」という質問（前述より「歌詞への関心」と言い換えている）に対して「歌詞」と答えた学生が最も多かったのは11年度の本学であった。11年度生27.7%に対して19年度生は14.3パーセントで、7年前の5校の平均15.4%を下回っている。

5 まとめ

以上、学生の歌詞理解の実態とその問題点を、11年度生に行った調査結果と比較しながら探ってきたが、学生の学力低下の現状を改めて確認する結果となり、今後はさらに丁寧に指導する必要性を感じている。また、「まっかな秋」「たきび」や「虫の声」「まつぼっくり」「もみじ」といった自然物が多く描かれている歌を歌いつなげていく意味を、今一度考え直してみたいと考えている。今回の調査は、学生に歌詞理解を再認識させる意味で学習的な意味合いもあったと自己評価している。アンケートの設問Ⅳの自由記述では多くの学生が分からない言葉があることを自覚し、「意味も考えずに何気なく歌っていることに気づいた」「分かっていたつもりでも、子供に説明するとなると難しい」と答えており、「子供のころの歌は、大きくなっても覚えているので大切」といった気づきや「分からないところを解決した方が歌は楽しくなる、心に響くと思った」といったうれしい記述も見られた。「アンケートのおかげでたくさんの知らない単語や、勘違いを分かってよかった」というアンケートそのものを評価するコメントもあったが、今後は授業の中で歌詞の意味をディスカッションするなど常に学生の意識を喚起する方法を模索していきたいと考えている。

< 注 >

- 1) 宮脇長谷子、笠井かほる、井口太「保育者養成における音楽指導に関する一考察 - 学生の歌詞理解の実態と問題点 -」静岡県立大学短期大学部研究紀要第13-2 2003
- 2) 宮脇長谷子「幼児の歌唱教材に関する一考察 - 旋律演奏の視点による分析を通して -」鶴川女子短期大学研究紀要第15号 1992
宮脇長谷子「幼児の歌唱教材に関する一考察（その2） - 左手伴奏型の運指分析より -」鶴川女子短期大学研究紀要第17号 1994

(2007年12月27日受理)

アンケート調査への協力をお願い

私どもは、それぞれ保育者養成校に勤務する者です。幼児向けの歌の歌詞に関するみなさんの理解の実態を知りたいと考え、以下の設問を用意しました。回答は無記名で、その結果は統計的に処理されますので、個人的なデータによってご迷惑のかかることはいっさいありません。是非、ありのままにご回答下さるようお願いいたします。なお、他の人とは相談せずに記入して下さい。

I 以下のいくつかの歌詞をゆっくり黙読して下さい。これらの中に、意味のよくわからない「単語」、幼児に説明する時に不安だと思う「単語」があった場合、○で囲んで下さい。

[記入例]

まいごのまいごのこねこちゃん あなたのおうちはどこですか……

《まつかな秋》 薩摩忠作詞

1-3. まっかだなまっかだな

1. つたのはっぱがまっかだな もみじのはっぱもまっかだな
2. からすうりってまっかだな とんぼのせなかもまっかだな
3. ひがんばなってまっかだな とおくのたきびもまっかだな

- | | | |
|--|---|---------------------|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. しずむゆうひにてらされて 2. ゆうやけぐもをゆびさして 3. おみやのとりいをくぐりぬけ | } | 1-3. まつかなほっぺたのきみとぼく |
|--|---|---------------------|

1. まつかなあきにかこまれている
2. まつかなあきによびかけている
3. まつかなあきをたずねてまわる

《たきび》 異聖歌作詞

- | | | |
|---|---|----------------------------------|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. かきねのかきねの まがりかど 2. さざんかさざんか さいたまち 3. こがらしこがらし さむいみち | } | 1-3. たきびだたきびだおちばたき
あたらうかあたらうよ |
|---|---|----------------------------------|

1.きたかぜびーぷーふいている

2.しもやけおててがもうかゆい

3.そうだんしながらあるいてる

《たなばたさま》 林 柳波作詞

1.ささのはさらさら のきばにゆれる おほしさまきらきら きんぎんすなご

2.ごしきのたんざく わたしがかいた " そらからみてる

《お正月》 東くめ作詞

1.もういくつねるとおしょうがつ おしょうがつには たこあげて

2. " " まりついて

1.こまをまわしてあそびましょう はやくこいこいおしょうがつ

2.おいばねついて " "

《こいのぼり》 近藤 美耶子作詞

やねよりたかい こいのぼり おおきまごいは おとうさん

ちいさいひごいは こどもたち おもしろそうに およいでる

《手のひらを太陽に》 やなせ たかし作詞

1.ぼくらはみんないきている いきているからうたうんだ

2. " " わらうんだ

1.ぼくらはみんないきている いきているからかなしいんだ

2. " " うれしいんだ

1-2.てのひらをたいように すかしてみればまっかにながれる ぼくのちしお

1.みみずだって おけらだって あめんぼだって

2.とんぼだって かえるだって みつばちだって

1-2.みんなみんな いきているんだ ともだちなんだ

《うれしいひなまつり》

1.あかりをつけましょ ぼんぼりに おはなをあげましょ もものはな

ごにんばやしの ふえたいこ きょうはたのしい ひなまつり

2.おだいらさまと おひなさま ふたりならんですましがお

およめにいらした ねえさまに よくにたかんじよの しろいかお

3.きんのびょうぶに うつるひを かすかにゆらす はるのかぜ

すこししろざけ めされたか あかいおかおの うだいじん

4.きものをきかえて おびしめて きょうはわたしも はれすがた

はるのやよいの このよきひ なによりうれしい ひなまつり

《アルプスいちまんじゃく》

1.アルプスいちまんじゃく こやりのうえで アルペンおどりをさあおどりましょう

2.いちまんじゃくに テントをはれば ほしのランプにてがとどく ランラララ……

II 次にあげる単語の中でよくわからないと思うものを○で囲んでください。

〈植物〉 アマリリス つげ ふくじゅそう ポプラ びわ もみじ

いのこずち かえで たちばな

〈動物〉 イルカ ひつじ りす やぎ

〈虫・鳥〉 まつむし めだか すずむし カナリヤ くつわむし ひばり

うまおい クラゲ とんび ひよこ どじょう バッタ

〈その他〉 まきば かんざし シャボン フルーツ じゃのめ

III 今までの調査で勘違いの多かった歌詞の部分を示しています。あなたも同じような理解をしているものがあつたら、番号に○をつけて下さい。

1.どんぐりころころ どんぐりこ → 正 (どんぶりこ)

2.アルプスいちまんじゃく こやぎのうえで → 正 (こやり)

3. ひらいたひらいた……れんげのはながひらいた → 正（蓮の花の蓮華）
↳ レンゲ草のこと
4. ゆきやこんこん あられやこんこん → 正（こんこ）
5. かきねのかきねの まがりかど → 正（垣根）
↳ 柿根

他に何か勘違いしていた経験のあるものがあつたら下に書いて下さい。

IV このアンケート調査に回答いただくことで、気づかれたことや感想を聞かせていただきたいと思えます。お願いします。

V 最後に、もうひとつ、以下の該当するところに○をつけて下さい。

あなたの育った環境は、
身の回りの自然が ・多かった ・やや多かった ・やや少なかった ・少なかった

あなたの虫や小動物へ
の興味や関心は ・多い ・やや多い ・やや少ない ・少ない

あなたの草花や木への
興味や関心は ・多い ・やや多い ・やや少ない ・少ない

旋律と歌詞はどちらが
先に印象に残りますか。 ・旋律 ・歌詞 ・どちらでもない

ご協力、どうもありがとうございました。所定の回収方法によって提出して下さい。

